春光懇話会会報

Wave21

2017.5
No.160

特集　わが社の社会貢献

http://www.shunko.jp

トップインタビュー

聞き手…春光懇話会 浅井事務局長

春光会23社の社長にご登場いただき、ご自身のプロフィールを語っていただきます。生い立ち、お若い頃の思い出、会社生活のこと等々、いろいろとお伺い致します。
今回は損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険の髙橋社長にインタビューさせていただきました。よろしくお願い致します。

損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険

社長　髙橋　薫

生年月日　1956(昭和31)年5月13日
出身地　東京都葛飾区
出身校　早稲田大学理工学部電気工学科
略歴　1979年　安田火災海上保険
（現 損害保険ジャパン日本興亜）入社
2008年　同社執行役員人事部長
2010年4月　同社常務執行役員
2010年6月　同社取締役常務執行役員
2012年　同社代表取締役副社長執行役員
2015年　損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険
代表取締役社長社長執行役員
趣味　登山、スキー、オーディオ、音楽鑑賞

――ご出身はどちらですか。

幼少期は葛飾区の青戸で育ちました。フーテンの寅さんの柴又帝釈天の隣町で、地元の小学校、中学校に通っていました。大晦日の夜には、友人たちと柴又帝釈天まで歩いて初詣に行って、江戸川で初日の出を見るといったことが恒例になっていました。

中学へ入ると剣道部に入部し、高校（早稲田大学高等学院）卒業時まで続けました。大学の付属高校ということで大学入試もなく、部活動主体の生活を送り、早稲田大学の理工学部に進学しました。

――大学時代はどのように過ごされていましたか。

中学・高校と剣道をやってきて、高校卒業時には三段でしたので、大学で剣道を続けるかどうかは相当悩みました。今まで部活漬けの日々だったので、「自由」にあこがれてしばらくは何もせず過ごしていましたが、そんな生活も物足りなくなり、競技スキーの同好会に入りました。

自分も初心者からのスタートでしたが、そこにはさまざまなレベル、考え方の人たちがいて、自身の思考の幅も広がったような気がします。また、そのような中で一つにまとめる難しさ、楽しさみたいなものもありました。

大学で剣道部に入っていたら会社も違うところに入っていたと思いますし、良かったかどうかは別にして、自分にとっては大きな決断でした。

――就職活動について教えてください。

当時、理工学部では、求人に対して学内で選抜を行い推薦するといった慣習があり、私も、当初、自動車メーカーへの学校推薦を貰っていました。しかし、たまたま友人から、「安田火災（現損害保険ジャパン日本興亜）という会社が理系を若干名募集しているので行ってみないか」と募集締め切りの日に誘われ、説明会に参加しました。

最初に会った人事担当者に、会社で何をしたいのか聞かれ、「そもそも損保が何かも知らないので、どんな仕事があるのか教えてください」と答えましたが、よく次のステップに進めてもらえたものだと思います。履歴書も持たずに訪問したので、「ここで履歴書を書いて明日面談に来なさい」と言われ、結果として内定をもらってしまいました。

入社については、学校推薦を受けていた自動車メーカーにするか迷いました。専攻は電気だったのですが、電気ＯＢの社員の方が言うには「自動車は機械工学がメインで電気からきても面白くないぞ」と、真偽のほどは分かりませんが、アドバイスもあり、どうせ畑違いのところであれば思い切って文系の会社もいいかな、ということで当社への入社を決めました。

――入社後の配属はどちらでしたか。

理系として専門職的に採用されていたので、当初の予定通り安全技術部という部署に配属になりました。そこでは、お客さまの工場に出向き、消火設備の試験、例えば圧力計を持って放水試験等を行ったり、リスク分析、防災のレポートを作成したりと、東京と大阪で計4年間勤務しました。

短い期間でしたが、ビジネスマンとしての基礎を、よく指導してもらったと思っています。特にお客さまに出すレポートについては、原文がなくなるほど添削を受けました。当時は複雑な思いも若干ありましたが、後々本当に役に立ちました。

――会社生活でターニングポイントとなった出来事はありますか。

当時、安全技術部門の職員については部門外への転出はほとんどありませんでした。ところが、直間比率の改善ということで、当時100名程度在籍していた同部門においても、2割程度が営業や保険金支払い部署等に転出することになりました。

「君はまだ若いしエンジニアとしてもこれからだ。絶対に異動はない」と課長に言われて、異動発表当日は、四国の宇和島にある旅館の防災調査に向かっていました。発表時刻に連絡を取ってみると、営業へ転出とのこと。驚きました。今でも覚えていますが、島にある旅館に船で渡るときに、足がガタガタ震え出したんです。「自分に営業なんてできるのだろうか」と本当に不安でした。

ただ、「結果を気にしても仕方がない。ベストを尽くしてダメなら、また違うところで頑張ればいい」と割り切った瞬間に、気が楽になって震えも止まりました。下船するころには、「宇和島での仕事が終わったら松山で坊ちゃん風呂に行こう」なんて考えていました。

それ以降、営業はもとより経営企画や人事等の新しい部署を経験してきましたが、取り組むスタンスはいつも一緒です。

――営業時代の成功や失敗談は何かありますか。

たくさん失敗はしました。ただ、うまくいった時や失敗した時に、別の人が担当だったらどのような結果になったか、ということをよく考えていました。

例えば、ある案件でうまくいった時、他の人でも多分同じ結果が出たなと考えると、自分自身の中であまり大した話ではなくなる。反対に失敗した時も同じです。反省はしますが。

ただ、時々これは自分だからうまくいった、と感じられる仕事が結果の大小とは別にあるんです。その時はやっぱり嬉しかったですね。

また、過去の人たちの仕事を知っているのは力になるなと思いました。初めて配属された営業部では、成果だけではなく、プロセスや失敗についても、情報動向という文章に残すよう厳しく指導されました。自分が初めて書いた情報動向も、ある大口契約を他社に切り替えられたというものでしたが、過去の先輩たちの記録にどれだけ助けられたかわかりません。

――人事も経験されていますが、そのとき意識していたことはありますか

人事の仕事は、昇進、異動、転勤等社員一人ひとりの処遇、生活に直接関係してきます。そういう意味での、責任の重さ、影響の大きさを常に感じながら仕事をしていました。

全国に支店、支社があり、異動、転勤が多い業態ですので、定期異動期には当時でも1000名を超える社員が異動します。それを2人の人事課長で対応していました。相当な業務量でしたが、人事異動の目的を、突き詰めると「会社、職場を強くする」「本人の成長」、この二つを常に意識するようにしていました。

大学時代、競技スキーに打ち込む（立山の夏合宿にて）

――生命保険会社の社長になって、見え方など変わったことはありますか

同じ保険でも、生保、損保で見える景色の違いに驚いています。損害保険は、私が入社した昭和50年代は、国内20社体制、大手5社体制と言われていましたが、今では3メガグループに集約されています。

ところが、生命保険の場合、現在でも41社あり、それぞれの会社が特色を活かしたビジネスを行っています。さらに、高齢化社会、人口減少などと言われる中でも、実際は新たな契約が毎年2兆円程度生まれているマーケットです。我々にとっては競争は厳しいですが、成長マーケットそのものです。当社も健康サービスブランド「Linkx(リンクロス)」を立上げ、「健康応援企業」として独自のビジネスモデルを確立させようとしています。そのような新しいことができる業界だと感じています。

――最後に若手の人たちにメッセージをお願いします。

会社の中では、色々な縁や運など、自分のコントロール以外のことがたくさんあります。それを自分にとってプラスにするのは、やはり自分自身のスタンスにかかっていると思います。チャレンジしてベストを尽くす。シンプルですが大切なことだと思います。

また、社員には、「失敗を尊ぶ」、「まずはやってみよう」と言っています。これまでは決められたことをいかにうまくやるか、ある意味オペレーションの巧拙が問われてきましたが、今はお客さまにいかに新しい価値を提供するか、イノベーションの有無が問われる時代になってきたと感じています。

そのためには机上で考えていてもダメで、失敗を恐れずやってみる、そしてその評価は会社がするのではなくお客さまが行う。99の失敗があって初めて1つの成功があるのだと思っています。

春光懇話会の歴史コラム No.10

松陰神社宝物殿館長　樋口　尚樹

1954年山口県萩市に生まれる。山口大学文理学部文学専攻科修了。専門は日本近世史。現在、萩博物館歴史専門員。主著『日本の近代を拓いた萩の産業人脈』その他、萩博物館調査研究報告に論文を多数発表。

久原房之助・鮎川義介と井上馨

井上馨は1835(天保6)年、周防国吉敷郡湯田村(現山口市)で萩藩士の家に生まれた。井上29歳の1863(文久3)年、伊藤博文（後の初代工部卿、初代総理大臣）・井上勝（後の鉄道庁長官）・遠藤謹助（後の造幣局長）・山尾庸三（後の4代工部卿）らとイギリスに密航留学した。5人のうち、井上馨と伊藤は約半年後に帰国したが、目覚ましい発展を遂げたイギリスの工業社会を実見し、2人は日本の工業化の必要性を痛感したに違いない。明治維新後、伊藤は初代工部卿を務め、井上は伊藤の後を受けて2代目工部卿となり、明治日本の工業化に尽力した。この井上の留学経験が、日本の近代鉱工業を進展させた久原房之助と鮎川義介に大きな影響を与えた。

久原は慶応義塾（現慶応大学）卒業後、1890(明治23)年、森村組（現ノリタケカンパニーリミテド）に入社したが、翌年、井上の説得によって伯父藤田伝三郎が社主を務める藤田組（現DOWAホールディングス）に入社、小坂鉱山（現秋田県小坂町）に着任した。久原は小坂鉱山の再生に心血を注ぎ、同鉱山を足尾・別子と並ぶ三大銅山に発展させた。小坂町には、井上が小坂鉱山を訪れた時の写真が残されている。久原の妻清子（鮎川の妹）も写っているので、1900～1903(明治33～36)年頃の撮影と思われる（久原の結婚は1900年）。ちょうど久原が小坂鉱山所長を務めていた時期で、写真には井上の妻も写っている。井上は久原に藤田組入社を勧めた手前、所長としての久原の鉱山経営が気にかかったのであろう、夫婦で遠路はるばる視察に出向いたのだ。

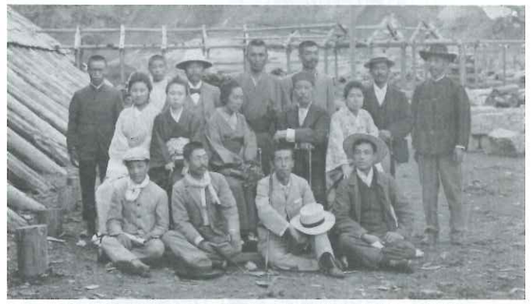
井上馨銅像（山口市湯田）

1905(明治38)年、久原は藤田組を退社し、すぐに赤沢銅山（現茨城県日立市）を買収、日立鉱山を開設した。井上は日立鉱山に資金援助を行い、1908(明治41)年・1910年・1911年の3度鉱山を視察している。最初の視察の際、高品位の鉱脈が途切れるというアクシデントに見舞われた。しかし、井上の来山直前に断層の先に新たな鉱脈が見つかり、無事に視察を終えて資金援助にこぎつけることができた。このエピソードにちなんで、断層は井上断層と名づけられた。1912(大正元)年には、日立鉱山は足尾・小坂に次ぐ銅生産量に発展した。

さて、鮎川の母は井上馨の姪で、鮎川から見れば井上は大叔父にあたる。その縁で、鮎川は常に井上に目を掛けられ、旧制山口高等学校（現山口大学）時代に井上から「貴様はエンジニアになれ」と申し渡されたという。その言葉どおり卒業後は、帝国大学工科大学（現東京大学）機械科に入学し、東京の井上の邸宅に寄寓しながら通学した。

1910(明治43)年、鮎川が戸畑鋳物（現日立金属）を創業する際には、井上の斡旋によって義弟の久原や藤田伝三郎の甥にあたる藤田小太郎らから資金を調達した。井上は1911年、建設中の戸畑鋳物の現場を視察に訪れている。鮎川の旧制高等学校時代から支援を続けてきた井上にとって、鮎川が初めて興す事業が気がかりだったのだろう。その後、戸畑鋳物は1933(昭和8)年に自動車部を設置、ダットサン12型を製造し、日産自動車の創業へと展開していく。

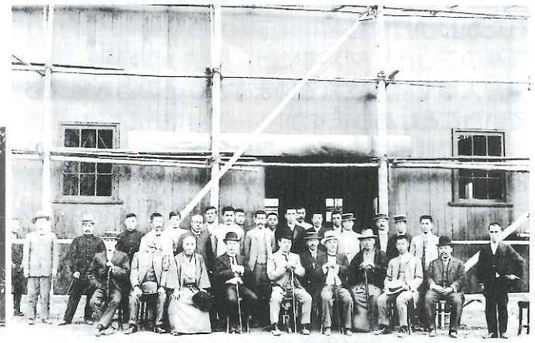
このように、井上は若き日のイギリスへの留学経験を原点に、久原と鮎川を物心両面から強く支え、日本の鉱工業の発展に寄与したのだった。



小坂鉱山視察の井上馨（小坂町総合博物館郷土館蔵）

※本写真掲載につきましては、小坂町総合博物館郷土館にご協力いただきました

日立鉱山視察の井上馨　1911(明治44)年



戸畑鋳物視察の井上馨　1911(明治44)年

元気な地域
地域春光懇話会紹介

地域春光懇話会は国内に52か所、海外に26か所。地域の特長を生かし、幅広い活動を行っています。各地域の若手の方にも登場いただき、懇話会活動、地域自慢などご紹介します。

広島春光懇話会

事務局　損害保険ジャパン日本興亜　広島支店
設立年　1958(昭和33)年　　会員会社数　38社

広島春光懇話会では、毎年、総会、ビアパーティー、山口春光懇話会との合同ゴルフ、忘年会、懇親ゴルフ会を行っています。中でも一番の盛り上がりをみせるのが7月に開催するビアパーティーです。ミニライブ等の余興の他に、会員各社から提供いただいた賞品をめぐってのじゃんけん大会や抽選会で、毎年300名を越す会員のみなさまの交流を深める場として定着しています。

活動内容!!

ビアパーティー

損害保険ジャパン日本興亜 田中智子さんに執筆いただきました

広島といえば、25年振りに優勝したカープを一番に自慢したいところですが、オバマ前米大統領の訪問で平和都市ヒロシマは世界からさらなる注目を集めています。原爆ドーム、平和記念公園に足を運ばれた方もいらっしゃると思いますが、2016年に原爆ドームの横に「おりづるタワー」が完成しました！屋上展望台では広島の過去と現在、そして未来に想いをはせることのできる景色が広がります。ぜひ一度、「神ってる」カープの試合と共に「平和」を考える旅をしてみてはいかがでしょうか。

地域自慢!!

おりづるタワー

会長から一言

広島春光懇話会は年間行事を通して、会員企業のみなさまと情報交換を重ね活動しています。これからも益々発展するようみなさまと活動して参ります。瀬戸内の美味しい魚、地酒もあります。ぜひ広島へ足をお運びください。　**日立製作所中国支社　支社長　渡辺弘之**

マレーシア春光懇話会

事務局　Berjaya Sompo Insurance（損保ジャパン日本興亜マレーシア）
設立年　1987(昭和62)年　　会員会社数　25社

マレーシア春光懇話会では、毎年、総会・工場見学会・セミナーやゴルフコンペを開催しており、年間を通じて会員同士の懇親、情報交換を活発に行っております。特に年始には、在マレーシア日本国大使館から特命全権大使ならびに参事官をお招きし、マレーシア経済の見通しについて議論する会合を定例化しており、当地における春光懇話会加盟各社のプレゼンスを上げる取り組みを続けております。今後も会員のみなさまのお役に立てる活動を継続して参ります。

活動内容!!

▲イスカンダル地区視察会
◀在マレーシア日本国大使との懇親会

Berjaya Sompo Insurance（損保ジャパン日本興亜マレーシア）渡邊恭宣さんに執筆いただきました

マレーシアは、日本人にとっての「住みたい国」として10年連続で世界No.1を更新しております。Visaを取得しやすい・物価が安いなど、要因はさまざまですが、何よりも親日国家であることが大きな特徴です。1981年にマハティール前首相が提言したLook East政策に見られるように、マレーシアは国家的に日本を模範としてきました。近年、マレーシア国民を対象に実施されたアンケート「日本は好きですか？」の項目では、90%以上の国民が「日本が好き」と回答しているほどです。成長著しい常夏の国マレーシアにぜひお越しください。

地域自慢!!

ペトロナスツインタワー

会長から一言

マレーシアは多民族、多宗教の国家です。様々な人種が上手に融合して生活しており、色々な文化を体感することができ、世界各国の料理が気軽に楽しめるのも魅力です。気候は年間を通して30℃前後でカラッと暑く花粉症もありませんから、ぜひお立ち寄りください。お待ちしています。　**Johnson Controls Hitachi Air Conditioning Malaysia Sdn. Bhd.**
Managing Director　佐々木良裕

営業部会だより　詳しくは営業部会ＨＰをご覧下さい→http://www.shunko.jp/eigyo/eigyobukaitop.html

第17回春光懇話会キャンペーン結果報告

(1) 目的　①春光懇話会知名度の向上
②春光懇話会活動への参画推進
③ビジネス交流の更なる活性化

(2) 結果

▼展開内容

項目	第17回（今回）	第16回（前回）
実施期間	H28年10月～12月	H27年10月～12月
主催	本部＋東京多摩春光懇話会	
ポスター	1,300枚	1,300枚
パンフレット	43,000部	50,000部
パンフレット掲載会社	26社	28社
ミニ展示会	7回	7回
クイズ抽選賞品	680本	620本

▼クイズ応募実績

クイズ応募件数	28,447件（16回：26,939件、15回：23,086件、14回：19,135件、13回：18,637件、12回：17,506件、11回：13,965件、10回：13,015件、9回：11,211件、8回：6,986件、7回：7,033件、6回：5,653件） 内、HP経由件数＝25,030件（WEB比率は88%） 前回は24,087件（同89%） 本人・家族応募比率＝本人58.3%（前回59%）、 家族39.1%（前回39%）

＊東日本大震災・熊本地震の被災者の方々に義援金として284,470円を寄付。

＜概略説明＞
・全員参加を目標とし営業部会全会員が参加内容を報告。
・パンフレット・ミニ展示会による売上は各社からの報告ベース集計で241百万円。
・クイズ応募件数は営業部会全会員が参加し過去最多を更新（各社HPの活用など）。

(3) 今後の課題・方向
・キャンペーンはPR効果・ビジネス交流として、また成果をあげるための強化期間として十分機能しているとの意見が多数。引き続き第18回キャンペーンに取り組む。
・パンフレットについては若手社員にも歴史を理解できる良い資料との評価が定着。今回はパンフレットのデザインを変更した。次回以降も実行委員会でより良いデザインを検討する。
・バイ春光・ファン作りを目的として従業員・ご家族のみなさまに中核企業を中心に各社のメインの事業内容をもっと知っていただく企業PR掲載を今まで以上に拡大・充実を図る。
・ミニ展示会の充実が今後の課題。（目的を明確にして各会員企業の理解を得る。会場提供会社増、出展企業増、出展商品多様化、夕方開催など）
・春光クイズ応募件数拡大のためHP・パンフレットの改善が必要。また春光クイズだけでなくパンフレット掲載商品購入の働きかけが必要。
・春光クイズ応募件数増、抽選賞品増には各グループリーダーが幹事と連携し取り組みの強化を図る。

キャンペーン・ミニ展示即売会

10／13　損害保険ジャパン日本興亜（本社）

10／17　日立製作所

10／20　日立ソリューションズ

10／25　サッポロビール

11／9　日立物流

11／11　損害保険ジャパン日本興亜（日本橋）

11／21　日立ハイテクノロジーズ

新製品・新商品紹介

日立プラントコンストラクション

労働環境・生産環境等の問題点を見える化、改善をサポート

〈解析ソリューション〉

当社は労働環境、生産環境、生産プロセス等の問題点を解析し、改善提案を行う〈解析ソリューション〉を技術サービス化して好評をいただいています。

対象は、暑さ・寒さ(労働環境)、塵埃・ガス対策、設備改善、省エネ、ランニングコスト低減(生産環境)等幅広い分野にわたります。

また、改善効果は、定量的データと3D画像の双方で確認できるので、お客さまご自身がエンドユーザーに向けてプレゼンテーションを行う場合にも有効です。

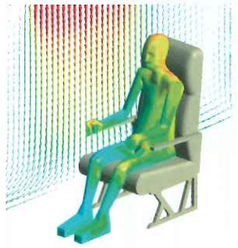
ぜひご活用ください。

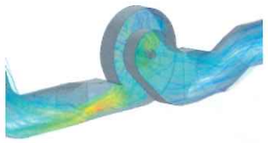
さまざまな分野の問題解決に貢献!

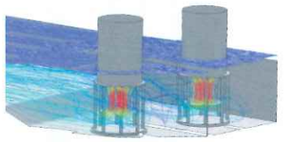
気流解析
気流・温度・湿度
塵埃・ガス
圧力、移動体

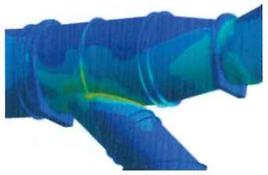
水流解析
水流・温度・混合・撹拌
流量・水位
気泡挙動

構造解析
応力・変位量・熱応力
破壊強度・固有振動数
疲労・剛体運動


オフィス熱環境解析


ダクト内整流化解析


河川水位解析


配管熱応力解析

解析ソリューションQ&A

Q. 具体的にどのようなことができますか？

■工場・食品倉庫の空調方式検討・温熱省エネ対策
■製造・洗浄ラインのガス拡散抑制
■クリーンルームの清浄度・塵埃挙動予測
■ダクト内流速の不均一対策や、圧力の検討
■水槽内気泡の影響予測、担体の最適な拡散方法
■設備や構造物の耐久評価や改善案の検討
上記以外にも幅広く対応しています。
図面や諸条件が無い場合でも、現地調査により対応可能です。

Q. 本当に効果があるの？

総件数2,000件以上の経験があります。また、現場や研究開発に携わったエンジニアがさまざまな角度から問題点を検討し、改善策の提案など、問題解決までサポートします。

Q. 高額な費用がかかるのでは？

問題解決にかかる実験費用や効果を考えると、はるかに低コストです。
また、ご予算に応じた提案もさせていただきますので、まずはご相談ください。

問合先　事業統括本部　管理統括部　テクニカルソリューション部（担当：今西、藤田、會田）☎03(3988)0555
✉ info.analysis.cx@hitachi.com
http://www.hitachi-plant-construction.co.jp/solution/service_field/analysis/index.html

情報アラカルト

●会員会社や地域春光懇話会の話題紹介欄です。イベント・ニュース・スポーツ・トピックス・文化活動等々…。自由に情報をお寄せください。
●掲載文は横書1行17字で最大30行を目安に写真1枚可、必ずタイトル、社名（通信員経由の場合は通信員氏名）を明記のうえ事務局まで。
●締切は3・6・9・12月の15日まで。原稿は郵送、ファクシミリ、Eメール可ですが、プリント写真は郵送してください。

JXTGエネルギー

みらいの車を支える素材と技術

当社では次世代自動車分野を重点領域に定め、軽量化、電動化、知能化の3つの視点から新規材料の開発を行っております。

軽量化に関しては、炭素繊維（CF）複合材、液晶ポリマー等の樹脂を用いた金属材料（部品）の代替を検討しております。CF複合材は、軽量で高強度な次世代の材料で、近年、飛行機や自動車などの構造材に搭載されたことで話題となっております。当社では、お客様の要求に合わせたCF複合材を設計、提案を行うことを強みに事業展開を行っており、現在はその知見を活かして、種々の自動車部品向けの素材開発を行っております。また、液晶ポリマーは、高い耐熱性や成形性といった特長を有しますが、そこに従来液晶ポリマーが不得手であった摺動性（滑りやすさ）を改善させた新グレードを開発し、トランスミッション用シールリング、ギアなどの駆動系部品への適用を検討しております。

電動化に関しては、電気自動車には欠かせないパワー半導体向けの樹脂材料の開発を行っております。現状はシリコン半導体が主体ですが、今後、次世代の半導体であるシリコンカーバイド（SiC）が導入され、周辺部材も高耐熱化が要求されております。当社では、石油由来の独自原料をベースに新たな高耐熱性のエポキシ樹脂を開発し、同樹脂をベースにした配合樹脂において、250℃以上の耐熱性と高い成形性を実現しました。また、上記液晶ポリマーを用いて、さらに生産性を改善させる検討も行っております。

知能化においては、微細構造を転写する（ナノインプリント）技術を活用し、自動運転に貢献する技術開発を検討しております。近年、衝突防止システムや自動駐車など、自動車の自動運転に関する技術導入が進んでおりますが、同技術を支える部品の1つとして、周囲監視用カメラが挙げられます。このカメラでは、雨天時などにカメラレンズに水滴が付着し、曇ることで視認性が低下する課題がありますが、当社ではナノインプリント技術を活用し、曇り防止機能を付与することを検討しております。

今後も、「炭素材料」、「高耐熱樹脂」、「ナノ加工」をキーワードに、みらいの車を支える素材、技術を提供して参ります。

▲CF複合材を用いたスプリング（左）と金属製スプリング（右）

▲樹脂製トランスミッション用シールリング

◀半導体パッケージ封止サンプル（黒い部分が配合樹脂）

▲ナノインプリント技術を活用した曇り防止機能付きガラス（右半分）と通常のガラス（左半分）

※2017年1月の展示会出展時の写真（社名・ロゴ等は出展当時）

問合先　機能材カンパニー　機能材事業企画部　機能材R&D管理グループ
☎03(6260)2025

千葉日晶会

50年史を作成しました

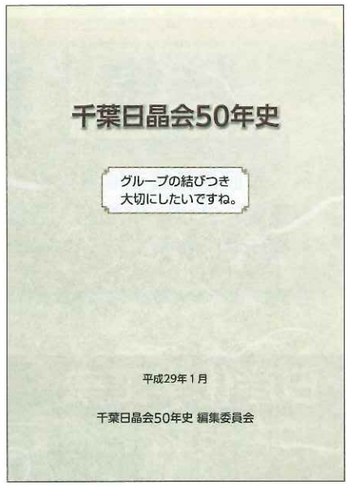
千葉日晶会は、設立50周年を記念して『千葉日晶会50年史』を作成しました。

「役員の挨拶」「先輩の寄稿」「本編」「資料編」に、「会員紹介」を加えた56ページの冊子で、平成19年作成の『千葉日晶会40年史』の続編の位置づけとなります。

「本編」では、主にこの10年間の活動を多くの写真入りで紹介し、50周年記念旅行の楽しい様子も収めています。「資料編」では、最新データを加えた「歴代会長・部会長一覧」・「行事・各種取組一覧」に、昭和50年代からのデータをまとめた「ゴルフ例会入賞者一覧」を追加掲載しています。さらに「会員紹介」では、会員各社ごとに1ページを割いて「事業内容・最近の話題・会員向けPR」などを自己紹介しています。

諸先輩方には、ご自身が活躍された時代を懐かしく想い起こしていただき、現役の皆さんには、当会の歴史・現状についての認識を新たにして、会員相互間の理解を深めて今後の活動を一層充実・発展させていただく。これを願って作成しました。

わずかですが残部がありますので、ご希望の地域春光懇話会様に先着順でお分けします。



申込先　春光懇話会事務局　小林宛　m-kobayashi@hdq.hitachi.co.jp
「千葉日晶会50年史希望」と書いて、送付先住所、氏名、連絡先を明記のうえ、お申込みください。

書籍紹介

『日産の創業者　鮎川義介』が刊行されました

当会報に、春光グループの歴史について連載された宇田川勝氏（法政大学名誉教授）の著書『日産の創業者　鮎川義介』が刊行されました。

鮎川義介は、久原房之助の事業経営を継承して、当グループの前身である日産コンツェルンを創設した、大正・昭和時代、斬新な構想力と革新的な事業活動で勇名を馳せた技術者、実業家。社会公益に役立つ未開拓分野の先駆者を目指し、機械工業の基礎素材である可鍛鋳鉄の事業や自動車産業を開拓。戦後は中小企業の助成活動や政治家として精力的に活動しました。

本書は、日産コンツェルンや満業経営にも説き及び、革新（イノベーション）企業家の波瀾の生涯を辿ります。

『日産の創業者　鮎川義介』は、宇田川名誉教授のライフワークの一冊です。春光グループと鮎川義介についての理解を深めるために、ご一読、ご活用いただければと思います。

四六判　256頁　本体2,800円(税別)
2017年2月28日発売

発行元・問合先　吉川弘文館
☎03(3813)9151
http://www.yoshikawa-k.co.jp/

特集 わが社の社会貢献

今回の特集では春光グループ各社の「社会貢献活動」をご紹介します。教育、文化、福祉、環境、スポーツなど、さまざまな分野における社会貢献活動を通じて、地域社会との関係を深めています。

日産化学工業

地域から親しまれるビオパーク

当社は、富山工場に隣接する遊休地（6,500㎡）を生物空間（ビオトープ）として整備し、2008年に『日産ビオパーク西本郷』を開設しました。この場所は、もともと工場からのばい煙などによる地域への被害を防ぐための土地で、中の試験田で米を栽培し監視していました。その後、工場では製造法を変更し、懸念がなくなったことから、その活用を検討。地域の憩いの場、生物多様性を学ぶ場、動植物が生息する空間、調整池としての役割を兼ね備えることで地域に役立つものをつくりたいとの想いのもと、開発を進めました。

柵、排水路、道などの構築物はすべて自然物とし、芝生広場、湿地、池、小川を配置しました。洪水時の調整池としての役割を担う池では、縄文時代の大賀ハスの生育、絶滅危惧種のニホンメダカの繁殖を手掛けています。また、「ホタル恋(来い)プロジェクト」と称し、餌となるカワニナを移植し、幼虫を放流。その甲斐あって、ホタルが住みつき、淡い光を放っています。このほかにもトンボや水鳥など、水辺の生き物が集まり、生物空間らしくなってきました。

現在は、北側に花畑を作り、全体で約2ヘクタールの広さになっています。花畑には、地域のみなさまとともに、チューリップやユリなどを植え、ビオパークに彩りを加えています。毎年5月には、近隣の保育園や小学校の協力のもと、チューリップの花摘みを行い、子どもたちに球根を渡しています。また、グランドや広場も地域に開放し、桜の開花時にはお花見の家族連れも見かけます。(昨年、自然観察・作業協力での来場者は 1,700人を超えました。)

ビオパークの運営には当社OBが活躍しています。富山県自然解説員「ナチュラリスト」の資格を取り、訪れる方々へ解説するほか、ビオパークサポートチームを結成し、花畑管理グループと一体で、「水辺と里山林を中心とした生物多様性空間、工場社員や地域のいこいの場」をめざしています。

文：松岡　健

▲大賀ハス

▲チューリップの花摘み

日立金属

小学校高学年向け「体験型出前授業」への参加

日立金属は、事業所の所在する地域の要望に応えたさまざまな社会貢献活動を継続的に展開し、地域社会と強固な関係を築いています。日本国内の主な活動は、青少年育成のための中学生向けスポーツ大会開催や熊谷さくらマラソン大会協賛、たたら操業支援など、事業所ごとに独自の社会貢献活動を実施しています。

今回は、当社の数ある社会貢献活動の中でも、日立グループ3社（日立製作所、日立マクセル、日立金属）が合同で小学校高学年向けに、皇居外苑北の丸地区の科学技術館で開催している体験型出前授業について紹介します。

本授業は、（公財）日立財団が科学技術館（皇居外苑北の丸地区）と協力しサイエンス友の会の会員を対象に提供する「日立サイエンスセミナー」の中で実施しているものです。当社は「My磁石とMy乾電池でMyモーターをつくろう！」というテーマで2012年より継続的に参画し、当社事業である磁石の魅力と不思議を伝えています。

16年9月に開催された同プログラムでは、当社は「磁石ってなんだろう？」というコーナーにて、さまざまな産業に貢献している磁石の種類や性質、製造工程などを説明し、最後には子どもたちの目の前で磁石に着磁し、クリップモーターづくりの素材となる強力な磁石に直に触れてもらいます。当社はステークホルダーとの関係づくり強化に努めていますが、このプログラムを通じ、子どもたちから得られる驚きや喜びの声、嬉しそうな表情を目の当たりにすると、毎年心地よいすがすがしさを感じることができます。

参加している小学生は科学技術に興味があり、小学生のレベルを超える知識を持っている子どもたちも多いことに非常に驚かされます。彼らの期待に応えるためにも、科学雑誌や大学研究室の発表資料などを参照し、最新の技術動向をプレゼンテーション資料に反映して、子どもたちの旺盛な知識欲に応えられるよう準備しています。

しかし、たとえ高度な知識や旺盛な好奇心を持っていても実際は子どもたちであり、実験の途中でうまくいかないと、泣きそうになりながら、「先生どうしたらいいの？」と聞いてくる様子は本当にかわいらしく、愛くるしさを覚えずにはいられません。会社の代表として参加していますが、子どもたちの歓声に囲まれながら、元気を分けてもらえるプログラムです。

社会貢献というと、グローバルな視点や貧困社会の課題解決につながる施策など、社会問題の解決を求めるのが最近のトレンドですが、今回紹介した事例は、日本の科学技術の発展を志す元気な子どもたちの夢を醸成する「創造性」に焦点を当てたもので、こちらも重要な社会貢献となります。そして、彼らとのふれあいは何ごとにも替えられない心温まる貴重な体験です。今後も当社はこのプログラムに継続的な参画をしていきます。

文：畑　利憲

▲元気いっぱいの小さな科学者たち

「体験型出前授業」に参加の日立グループのみなさん▶

日立建機

カンボジアへの取り組み

カンボジアには、内戦時に埋設された数多くの地雷や不発弾が、今でも地中に眠っています。一度埋められた地雷は除去しないかぎり、その土地に暮らす人々の脅威になり続けます。地雷や不発弾をなくすことができれば、人々は安心して生活ができ、これまで使えなかった土地を活用することもできます。現地では、カンボジア地雷対策センター（CMAC）が中心となり、厳しい環境の中、地雷除去の作業が続けられています。安全な土地は少しずつ増えてきていますが、全てをなくすためには、あと20年も30年もかかるのではないかといわれています。

土地が安全になっても、“荒廃した土地”で“失われた農業経験”の中では、生活を営むことは容易ではありません。住民の生活再建を支援する活動が必要になりますが、その役割の一端を担っているのが、日立建機グループが全面的に支援する2007年設立の認定特定非営利活動法人「豊かな大地」です。

豊かな大地では、地雷除去後の土地に暮らす住民の支援を、CMACのほか現地政府系組織と協力して推進しています。これまでバッタンバン州4郡20の村で、総延長43キロにおよぶ農道の整備、29基のため池と小学校4校の建設を行ってきました。住民が自立できるよう、米作、きのこ栽培、養鶏、家庭菜園などの農業訓練も実施しています。CMACのダイレクターであるチリン氏からは、「土地が安全になっただけでは、人はその場に留まらない。近くにため池がないと、離れた場所まで水を汲みに行かないといけない。豊かな大地の継続的なサポートは大変ありがたい」と、昨年12月の訪問時に感謝の言葉をいただきました。

豊かな大地は3月に設立から11年目を迎えました。賛同いただける個人・法人会員を随時募集していて、現地の活動を体感できるスタディツアーも年に一度実施しています。現地住民とその子どもたちが笑顔でいられる活動をみなさんで見守ってみませんか。

文：鈴木 圭一

◀12月のため池引き渡し式典で

▲地雷探索をするCMACの作業員

▲試験栽培中のハト麦畑

NIPPO

わが社の社会貢献

当社は、年間を通じて全国にある各事業所・部署毎にさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

昨年4月14日に発生した熊本地震では、被害を受けた熊本市の復興支援活動として、土木系総合職新入社員が熊本市災害ボランティアセンターでスタッフとして活動しました。活動内容は全国から集まるボランティアの受付や留意事項を説明するオリエンテーションの運営などでした。

また継続して実施している活動として、平成23年度から「世界の子どもにワクチンを日本委員会」へ寄付をしています。この団体は先進国が発展途上国の子供達のために必要なワクチンを提供するとの京都宣言採択をうけ、平成6年に設立されたNPO法人です。寄付の方法は、弊社が製造している道路建設の材料であるアスファルト混合物の社外合材販売数量1tにつき1円というルールに基づき寄付を行っています。この活動は、JXグループの社会貢献重点テーマである「Xみらいを担う子どもたちへの支援」にも沿うことから、これからも引き続き実施していきたいと思っています。

最近の取り組みとしては、平成27年度から『社会貢献「＋1」活動』を実施しています。これはこれまで取り組んできた社会貢献活動を継続しながら、「何か一つ、良いことを皆で考え実行する」ということを目的にしています。

その一つのとして、平成28年度は8月10日の「道の日」と2月の創立記念日に「全社一斉清掃活動」を実施しました。全国各地の事業所周辺の道路、側溝、河川、公園、空き地の除草、ゴミ拾い等に従業員が参加し、地域社会の環境の維持向上に貢献しました。「道の日」には111事業所、「創立記念日」には92事業所の参加がありました。

現在このような社会貢献活動に取り組んでいますが、これからも現在の活動に満足することなく、従業員一人ひとりが『社会貢献「＋1」活動』を意識しながら活動の幅を拡げていきたいと思っています。

文：嶋本　裕子

◀熊本市災害ボランティアセンター
オリエンテーション運営

▲ワクチンを寄付
◀全社一斉清掃活動（南九州統括事業所）

日立ハイテクノロジーズ

日本全国に展開する理科教育支援

当社は、メーカー機能と商社機能をあわせ持ちさまざまな製品を扱う企業ですが、各事業の根底には「電子線技術」と「光学技術」の2つのコア技術があります。今回は、この「電子線技術」を用いた電子顕微鏡による理科教育支援をご紹介します。

電子顕微鏡は、みなさんが理科の授業の際に使われたことのある光学顕微鏡よりも倍率が高く、細部まで観察することが可能な装置です。当社は、通常据え置き型で大きな電子顕微鏡を持ち運びが容易なサイズまで小型化し、現在日本全国の教育機関に持ち運ぶことで、電子顕微鏡を多くの方に活用いただく機会をご提供しています。

理科教育支援の背景には、近年、理科に対する興味が子どもたちの間で薄れている「理科離れ」が原因で、次世代の有望な技術者の育成が進んでいない現状があります。

この現状に対し、当社は、持ち運びに便利な卓上型電子顕微鏡「TM3030」を小中学校に持ち込み、当社社員が教師役として、葉の気孔やメラミンスポンジといった身近なものを試料としてその場で観察することで、身の回りにあるものをこれまで見たことのない倍率でお見せし、理科への関心を深める機会をご提供しています。

また文部科学省が、先進的な理数教育を実施している学校として制定しているスーパーサイエンスハイスクールを中心に、高等学校に電子顕微鏡の貸し出しを行い、授業や理数クラブなどで自由に活用いただくことで、高校生のみなさんがより深く学べる環境をご提供しています。

このように当社の製品を活用することで、「理科離れ」という社会課題解決の一助となるよう、自社の技術や知見を活かした社会貢献活動を展開しています。

文：岡田　直子

▲電子顕微鏡を操作する子ども

▼電子顕微鏡イベントの様子

日産自動車

自動車会社ならではの強みを生かして

企業ビジョン「人々の生活を豊かに」の実現に向けて

当社は、事業を営む地域社会の一員として積極的にコミュニティに貢献することに加え、グローバル企業として地球規模の課題解決に貢献することも重要だと考え、長期にわたり、国内外でさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

当社では「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンのもと、走行中のCO_2の排出量をゼロにする「ゼロ・エミッション」と、日産車が関わる交通事故の死亡・重傷者を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」の実現を目指しています。

社会貢献活動もこの考え方に基づき、従来の重点分野を整理・発展させる形で、環境や交通安全などに寄与する取り組みを、より積極的に行っています。

活動の実行にあたっては、自動車会社ならではの強みやアセットを最大限活用するとともに、高い知見と専門性を有するNGOや行政など、多様なステークホルダーとの協働を重視していきます。

グローバルに広がりを見せる活動

日本で実施している3種類の出張授業は、「環境」「モノづくり」「デザイン」をテーマに、社員が講師として小学校を訪れるプログラムです。自動車会社の知見やアセットを生かしたユニークな内容で、開始以来好評を博しています。日本で誕生したこれらのプログラムは、メキシコや欧州、中国など海外に拡大し始めています。

さらに、日本で34年目を迎える「日産 童話と絵本のグランプリ」に代表される「子どもと本」の分野においても、世界各国で独自の取り組みが行われています。

社会貢献活動の方針は世界各国の事業会社とも共有され、それぞれの地域における活動もこれに沿った形を目指していきます。一方で、国や地域により異なるニーズに対応するため、各国事業拠点や関連会社によるきめ細かな地域貢献活動にも引き続き取り組んでまいります。

文：小暮　淳子

▲社員による東日本大震災 復興支援ボランティア

▲熊本大地震で支援活動を行う日産自動車九州の従業員

▲「世界の子どもの本展（JBBY主催）」への協賛

▲世界各国で「子どもと本」に関わる活動を実施

春光懇話会 ファミリークラブ

“そろそろ結婚を♥♥♥”とお考えのみなさま
“結婚適齢のご家族”をお持ちのみなさま

“婚活”はじめませんか!

出会いはありますか?

「いずれは」も含めると、独身男女の９５%以上の人が「良い相手がいれば、結婚したい」と答えています。しかし、年々、結婚平均年齢は高まっており、非婚比率も増え続けています。非婚でいる理由の第１位は「出会いがない」「相手に巡り合えない」です。

今の世の中、じっと待っていても、良いパートナーに巡り合う機会は、なかなか無いものです。

- 春光懇話会ファミリークラブの入会金は2年間で1万円です。成約時お一人7万円。それ以外の費用は一切ありません。
- 5人のカウンセラーが親身に、会員のみなさまをフォローします。
- 年間約300組のお見合いがされています。

当クラブの特徴

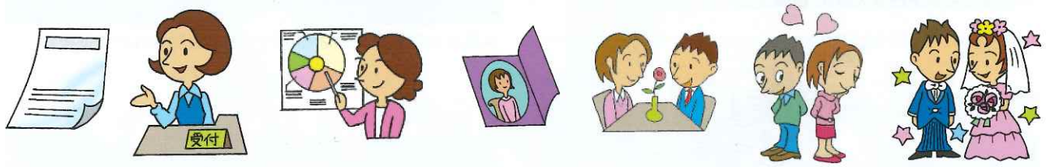
1.「安心です」会員を春光懇話会会員会社に関わる方に限っています。
2.「プライバシーは厳守されます」会社にお知らせすることはありません。
3.「入会金は1万円です」2年間有効。成約時お一人7万円、
この他費用は かかりません。
そろそろ結婚をとお考えのみなさま、今すぐ行動してください。
4.「入会手続きは簡単」☎03（3344）0410（ヨイエン）または
http://www.shunko.jp/family/family.htmlにアクセスし
資料請求・来所予約をしてください。

“見学のみ、説明を聞くだけ”も大歓迎です。
グループのみなさまに、もっともっとあたり前のように活用していただきたいと願っています。

スタートはいつも出会いから!

入会から成約までのステップ

資料請求 → 入会手続き → カウンセリング → お相手紹介 → お見合い → 交　際 → 成約、ゴールイン



春光懇話会 ファミリークラブ

〒160-8330　新宿区西新宿2-2-1　京王プラザホテル南館10階1050
TEL&FAX 03(3344)0410　family@mbr.sphere.ne.jp
受付時間　10:00～17:00　http://www.shunko.jp/family/family.html
定 休 日　火曜日･ウィークデーの祝日（土･日は常時オープン）

お知らせ

●春光会　○入会

平木　明敏
日立金属社長
1985年4月　日立金属 入社
2017年4月　代表執行役 執行役社長
兼 取締役
好きな言葉「戦う集団」

最近感動したこと　40年来の広島カープファンで、同チームが2016年に25年ぶりにリーグ優勝を果たしたこと。自前で選手を育成して強くなっていくチームの体制･団結力に共感。
兵庫県出身　56歳

石塚　達郎
日立建機会長
1978年4月　日立製作所　入社
2017年4月　日立建機代表執行役
執行役会長
好きな言葉「心をひとつに」「現場主義」

最近感動したこと　先日、北海道の浦幌試験場で、鉱山用の巨大な交流モータ駆動のダンプトラックと油圧ショベルを体験。電動化で成長を遂げた日立銅山。そこで育てていただいた日立グループが、電動化・IoTなど一つになって鉱山や建設分野で新たな挑戦できることにワクワクしています。
千葉県出身　61歳

平野耕太郎
日立建機社長
1981年4月　日立建機　入社
2017年4月　代表執行役　執行役社長
好きな言葉　自作ですが「見ない夢は成らない」です。

最近感動したこと　昨年のリオオリンピック・パラリンピックで当社の社員2名が活躍したこと。（パラリンピックの自転車競技に出場した藤田選手は、見事銀メダル獲得）
東京都出身　58歳

○退会
小枝　至（日産自動車）
太宰俊吾（日立建機）

●春光会副会長（17.4.1）
○就任
西川廣人（日産自動車社長）
○退任
小枝　至（日産自動車相談役）

●春光会幹事（17.5.1）
○就任
三浦和哉（日立キャピタル会長）
○退任
内ヶ崎功（日立化成名誉相談役）

●春光懇話会副会長　○就任

西川　廣人
日産自動車社長
（17.4.1）

三浦　和哉
日立キャピタル会長
（17.5.1）

○退任
小枝　至（日産自動車相談役）（17.3.31）
内ヶ崎功（日立化成名誉相談役）（17.4.30）

●事業協議会　○入会

田中　晃
JX石油開発
常務執行役員

田宮　直彦
日立金属
執行役

山下　祐行
日立化成
執行役常務

藤田　茂
日立化成
執行役

藤井　宏豊
日立建機
執行役専務

白井　千尋
日立キャピタル
執行役専務

大橋　芳和
日立キャピタル
執行役常務

佐藤　清輝
日立物流
執行役常務

原田　肇
損保ジャパン日本興亜
ひまわり生命保険
代表取締役副社長
執行役員

髙橋　章次
NIPPO
代表取締役
執行役員副社長

●**事業協議会**

○退会

中田賢明（JX石油開発）
大塚眞弘（日立金属）
菅　政之（日立化成）
宮内敏彦（日立化成）
長谷川久（日立建機）
菅原明彦（日立キャピタル）
西田政夫（日立キャピタル）
浦山一紀（日立物流）
中島康将（損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険）
廣本哲也（NIPPO）

●**代表者交替**

○春光会会社

日産自動車　西川廣人←カルロス ゴーン
日立金属　平木明敏←髙橋秀明
日立建機　平野耕太郎←辻本雄一

○春光懇話会会員会社

日立ドキュメントソリューションズ
　荻原　淳←飯ヶ谷清明
東京証券代行　山田裕之←竹井　豊
日立アプライアンス　徳永俊昭←二宮隆典
日立産機システム　荒谷　豊←青木優和
新明和工業　五十川龍之←大西良弘
日立コンシューマ・マーケティング
　須藤利昭←中村晃一郎
日立パワーソリューションズ　石井義人←浦瀬賢治
日立産業制御ソリューションズ　木村　亨←髙山光雄
日立フーズ&ロジスティクスシステムズ
　林　崇←髙橋哲也
クラリオン　川端　敦←川本英利
日星産業　本山博之←樗木士郎
日産プリンス東京販売　浜本雅夫←髙田泰伸
JX不動産　稲葉慎司←有重　哲
ホウスイ　乃美昭俊←髙橋昌明
ニチレイフーズ　大櫛顕也←池田泰弘
日立ハイテクフィールディング　佐野耕士←杉山秀司

●**春光懇話会会員会社**

○入会（17.4.1）

バンテック

○社名変更（17.4.1）

JXTGホールディングス←JXホールディングス
JXTGエネルギー←JXエネルギー

○住所変更（17.3.21）

・日立トラベルビューロー
〒104-0032　東京都中央区八丁堀4-6-1
八丁堀センタービル9階
☎03(6262)8020

○退会（17.3.31）

カルソニックカンセイ

●**地域春光懇話会会長就任**

・ニューヨーク春光懇話会　高市孝二
Hitachi America, Ltd. President & CEO

わが社と町並み　日産車体　秦野事業所

登山、温泉、名水と「企業祭」—神奈川県秦野市—

神奈川県秦野市は、県西部に位置し、東京都心から車で1時間ほどの距離にあります。市内を東名高速道路や国道246号が横断し、中井町との境界付近には「秦野中井インターチェンジ」もあり、市内外だけでなく、県外からのアクセスにもとても便利な場所です。

市の自慢は登山、温泉、名水で、北部には神奈川の屋根といわれる丹沢表尾根があり、一年を通じてたくさんの登山客が訪れます。

南東部には鶴巻温泉地区があり、ハイキングや登山の帰りに一汗流そうという人々の憩いのスポットになっています。また、秦野盆地湧水群は名水百選にも選ばれており、護摩屋敷の水、葛葉の泉、竜神の泉などが有名。駅近くには、弘法大師の伝説の残る弘法の清水もあります。

日産車体秦野事業所は1978年に開設されました。秦野駅から車で5分ほどの水無川沿いに位置し、近くは丹沢山塊や渋沢丘陵、遠くは富士山や箱根連山が眺められる緑豊かな環境です。構内にはテストコースや実験設備があり、車体の強度、商品性など、車をあらゆる面からチェックする厳しいテストを行っています。

同事業所では毎年秋に「クルマと遊ぼう」をテーマに企業祭「遊more！秦野」を開催しています。実験評価路、実験設備、圧造工場を一般開放し、テストコース・オフロード同乗体験、極寒・熱風体験、車転がり体験、プレス工場見学などさまざまなイベントで、多くのお客さまにクルマの楽しさを体感していただいています。

ほかにも白バイ隊や消防隊の模範演技、各種ステージや模擬店など盛りだくさんの内容で子どもから大人まで楽しめるお祭りです。開催日程や内容は当社ホームページに掲載されますので、みなさんもぜひ足をお運びください。

テストコースのある日産車体秦野事業所

子どもも大人も楽しめるオフロード同乗体験

秦野事業所の企業祭には毎年5,000人以上が来場

人気の白バイ隊模範演技

日産車体　秦野事業所　神奈川県秦野市堀山下233番地　☎0463(87)2972
www.nissan-shatai.co.jp

春光懇話会会報 Wave21
第160号　2017年5月発行
●編集兼発行人／春光懇話会事務局長　浅井　真一
●発行所／〒100-8220　東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービル11階　春光懇話会事務局
☎03(4235)6266　FAX03(4235)6267　http://www.shunko.jp
●印刷所／株式会社日立ドキュメントソリューションズ　●レイアウト／エフ・スタジオ